

司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでもらいたい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、赤波江豊神父様(香里教会)が担当。



赤波江豊神父
からの一冊



『君たちはどう生きるか』マガジンハウス/吉野源三郎著、2017年、定価本体1300円(税別)

本書は1937年に出版された児童文学の古典的名著です。著者は吉野源三郎で、もともとは文学作品としてではなく、倫理についての本として書かれました。言わば子ども向けの哲学書とも言えます。物語のあらすじは、コペル君というニックネームをもつ15歳の本田潤一少年が、学校生活を通して経験した多くの出来事の中で、物事の見方、人間関係、社会について観察しながら成長していく内容です。コペル君は早く父親を亡く

し、その父親の遺志を継いだ叔父さんがコペル君を導きますが、その内容は「叔父さんのノート」に記されています。コペル君というニックネームは叔父さんがつけましたが、それは天文学史上最も重要な発見である地動説を唱えたコペルニクスに由来しています。地動説とは「天体が動いているのではなく、我々が立つ地球が動いている」というものですが、コペル君が学校生活で発見したものは、まさにこの地動説が根源となつていきます。物語の最後にコペル君は叔父さんへの返答として、ノートに自分の生き方について決意を書き、語り手が読者に対して「君たちはどう生きるか」と尋ねてこの物語は終わります。

筆者は50歳を過ぎて初めてこの小説に触れましたが、非常に深い感銘を受け、たびたび若い人にも薦め、何度か堅信式のお祝いとしてプレゼントしたこともありま。大人の方も一度読まれて感動されたら、自分の子どもにも読ませたいかなという本です。

ちなみにコペルニクスは、第二バチカン公会議前に存在した下級品級の副助祭でした。科学史上大きな発見をした人の中には司祭も結構いて、近代ではビッグバン理論(宇宙は約138億年前に高温高圧の素粒子のかたまりが大爆発を起こして作られた理論で、現在通説になつてい)を提唱したのはベルギー人司祭のジョルジュ・ルメートルでした。このように司祭は宗教の面

だけでもなく、科学の分野でも頑張っていますよ。



漫画『君たちはどう生きるか』マガジンハウス/吉野源三郎(原作)、羽賀翔一(漫画)2017年、定価本体1300円(税別)

今回は、山本英明神父様(阿倍野教会)です。



著者のプロフィール

- ①年齢は35歳まで。カトリック信者、もしくはカトリック教会と何らかの関係がある方(カトリック校や諸施設の在籍者又は卒業生、保護者、関係者など)。
- ②感想は400字程度。氏名、所属、顔写真(自由)を添えてメール(jiho@osakacatholic.jp)か郵便にて送付(掲載にあたり編集する場合あり)。
- ③感想を送ってくださった方全員に教区オリジナルしおり(4枚組)を進呈させていただきます。

たくさんのご投稿をお待ちしています。



ラジオ
信仰の時間

ラザロ
(3月26日放送分)



3月担当 松永 敦 神父(兵庫教会)

今日の福音はラザロが生き返るとい箇所です。ラザロの復活と呼ばれていますが、厳密には蘇生と呼ぶ方が正しく、ラザロは生き返った後、いつかは分かりませんが、他の人びとと同じように死を迎えています。

ヨハネ福音書には6つの奇跡物語があり、最初はカナの婚礼の席で水をぶどう酒に変える奇跡です。次に、役人の息子をいやす奇跡、ベトザタの池で病人をいやす奇跡と続き、五千人に食べ物を与える奇跡があります。そして、生まれつき目の不自由な人をいやす奇跡と、ラザロを生き返らせる奇跡となります。

他の福音書をみると、ルカによる福音書7章には、ナインでやもめの一人息子を生き返らせ、マルコによる福音書5章では、会堂長の12才の娘を死から生き返らせたという記事が載っています。ですから、ラザロの前にも生き返る奇跡は行って、そのことを知っていたからこそ、マルタとマリアはラザロのもとにイエス様を呼ぼうとしたと考える方が自然のように思います。

しかし、ラザロの復活はこれらの復活とは異なる点が3つあります。まずは取り扱われ方で、

圧倒的にラザロの箇所は詳細にどのようなことがあったかが描かれています。2つ目は目撃者の多さです。他の二つの奇跡は少人数の目撃者しかいません。最後が、他の2つは死んですぐの復活であるのに対して、ラザロは4日後であるという点です。

今日の箇所です。今日不思議な箇所があります。それは、イエス様が涙を流されたという箇所です。福音書の中でイエス様が泣いたと記されているのは、ルカ19章41節とこの箇所だけです。ラザロが死んで、姉妹のマルタとマリアが泣くのは分かります。あとでよみがえらせるのだから、イエス様まで泣く必要はなかったはず。しかし、イエス様はそうはせずに、彼女らと一緒に涙を流されました。相手に共感し、寄り添うということ。

イエス様の時代、葬儀の時に職業として泣く仕事がありました。今も世界のいたるところに、同じような風習を持つ地域があります。号泣することが故人を悼むことに繋がるという意味があるようですが、イエス様の涙はそれとは異なる意味を持っています。なぜなら、涙を流す前後に2度「心に憤りを覚え」とあり、それはラザロを失った姉妹の死に対する憤りであり、それに共感による憤りだと考えられるからです。それと同時に、近い将来、わが身に降りかかる受難と死に対する憤りでもあつ

たはず。イエス様の受難と死。この出来事に通して起こること。それは、ラザロの生き返りをはるかに越える復活です。

毎週日曜日 5:50~6:00AM 放送
5月担当: 崔 周永 神父
ABC ラジオ (朝日放送) AM1008/FM93.3
スマホアプリの radiko でも聴けます。

WYD Lisbon 2023
2023年 ワールドユースデー リスボン大会
大会テーマ 「マリアは出かけて、急いで山里に向かった」 (ルカによる福音書第1章39節)
WYDって何だろう?一緒に学び、巡礼への心の準備をはじめましょう!
勉強会のお知らせ
WYDには世界中から青年たちが集まり、今まで日本からも多くの青年たちが参加しカトリックの信仰を実感しています。今回のWYDのテーマは? WYDにはどんな歴史があるの? WYDへの参加予定の方、今回リスボンに行くことができない方も、この勉強会にぜひご参加ください。
WYD 参加したい!
いつも子どもが行くかも
2023年 4/23(日) 終了 5/21(日) 6/25(日)
<時間> 各日 15時~17時 (終了予定)
<場所> 大阪梅田教会 申し込み不要
<対象> どなたでも
※WYDリスボン大会に参加される方は必ずご参加ください
<主 催> カトリック大阪大司教区 青少年司牧委員会
<問合せ窓口> カトリック大阪大司教区 教区本部事務局 青少年司牧委員会
TEL: 06-6941-9700 (月~金 9時~17時) Mail: youth@osaka.catholic.jp
<当日連絡先> サクラファミリア TEL: 06-6225-8871